



サイジャーナル

月刊
26-11・12
第418号

日本サイ科学会 平成 26 年 11 月 1 日発行

本部 〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 郵便振替 00100-2-15344 日本サイ科学会
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

東 北 〒981-0904 仙台市青葉区 旭ヶ丘1-36-1アサビル201号 佐佐木 康 二 ☎ 022 (279) 0908・FAX 022 (274) 0097	中 部 〒466-0051 名古屋市昭和区 御器所3-4-21 眞 野 博 英 ☎・FAX 052 (871) 9060	北 陸 〒920-0864 金沢市高岡町12-45-1F ホリスティック健康科学研究所内 佐 藤 禎 花 ☎ 076 (234) 6634	関 西 〒659-0011 芦屋市六龜町9-39 (事務局) 木村のり子 河 野 明 夫 ☎・FAX 0797 (22) 6425	九 州 〒851-2122 長崎県西彼杵郡 長与町本川内16-6 森 安 政 仁 ☎ 095 (883) 6048・FAX 095 (883) 6159
---	---	--	--	---

十一月本部例会のお知らせ

日本人は知らない！縄文日本の驚くべき真実

講師 坂井 洋一氏

日本は現存する世界最古の立憲君主国だ。であれば、日本語はかなり古い言葉であるはず。でも、現状の日本史では、漢字が入ってくる前まで日本には文字も言葉もなかったことになっている。ところが、比較言語学が進化し、縄文時代のものと思われる岩刻文字（ペトログラフィ）や縄文土器に文字が彫り込まれているのが発見された！しかもそれらの文字は古代中近東の文字だ。これは何を意味するの？

6000年前、文字や言葉をもっていたシュメール人たちは一万キロの旅をして縄文日本にやってきたのか？ かたや、明治に公表された古史「竹内文書」や昭和に発見された古史「ホツマツタエ」は、縄文日本に宇宙的な文明があったことを伝える。超古代の世界は、我々の想像をはるかに超える宇宙

文明の時代だった!!

※7月21日の宇宙生命研究分科会で、第8回 UFO・ORB賞に選ばれました坂井洋一氏に、じっくり時間をかけてお話しいただく貴重な機会ですので、皆様もご友人、知人をお誘いして、是非ご参加願います。

●坂井洋一氏のプロフィール

1953年9月26日茨城県日立市生まれ。慶応大学経済学部卒。映画プロデューサー/バイヤー。作詞作曲家。古代秘史ハンター。日本と世界の文化の架け橋となることをミッションとし、世界の空手ファン向けに本格的空手映画「黒帯」及び「ハイキック・ガール！」を作り好評を得る。

作詞作曲家としては日本を代表するヒットメーカー小田裕一郎氏に師事。近年、日本の隠された歴史に興味を持ち、比較言語学をベースに古代日本と古代世界の驚くべき繋がりを明快に解く。

日時 平成26年11日8日(土)

午後1時半〜5時

会場 北とぴあ7階第一研修室

交通 J R京浜東北線王子駅下車
徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

会費 会員 二〇〇〇円
一般 三〇〇〇円
学生 一〇〇〇円

今月号の記事

- ◎十一月本部例会のお知らせ
- ◎御寄付御礼
- ◎九州サイ科学会十一月例会予告
- ◎関西サイ科学会十一月例会予告
- ◎スピリチュアル研究分科会発足のお知らせ
- ◎第23回宇宙生命研究分科会予告
- ◎関西サイ科学会十二月忘年会のお知らせ
- ◎十二月本部懇談会のお知らせ
- ◎一月本部例会のお知らせ
- ◎関西サイ科学会一月例会予告
- ◎平成25年7月本部例会報告
- ◎第三八九回関西サイ科学会報告
- ◎本部例会ビデオ映像の販売
- ◎本部月例会講演録の販売
- ◎オーブ(たまゆら)形成・出現の意識面
- ◎意識による鉱石の成長

「心を科学する博物館」と
一般の御寄付御礼
(8/4受領分まで)

金五万円也 渡邊 薫龍 様
金一万八千円也 森安 政仁 様

九州日本サイ科学会
十一月研究集会のお知らせ

心の調和についてII

講師 森安 政仁氏

日時 平成26年11月2日(日)
午後1時～4時

会場 森安商店

長崎県西彼杵郡長与町本川内郷16・6
問合せ095・883・6048

交通 JR長与駅下車徒歩20分
長崎バス 洗切小学校前
下車徒歩2分

会費 無料

※人生相談も伺います

※会員以外の方の参加も大歓迎

関西日本サイ科学会
十一月例会のお知らせ

いま脳波が面白い！ ～右脳
と左脳との脳波共鳴、人と人
との脳波共鳴で場に何かが起
きる！

講師 志賀 一雅氏

日時 平成26年11月15日(土)
午後1時半～5時

会場 大阪科学技術センター
六〇五号室

交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車
北へ徒歩5分 靱公園内

会費 会員 二〇〇〇円

一般 三〇〇〇円

学生 一〇〇〇円

問合せ0797・22・6425
関西日本サイ科学会事務局まで

★TOPICS

◎日本サイ科学会新分科会のご紹介です。(恐縮ですが、今回は既に

予約が定員に達しましたので、来年第2回の告知後に予約お申し込みをお願い致します。)

第1回スピリチュアル研究分科会

日時 平成26年11月16日(日)

午後1時半～5時

会場 北とびあ8階807会議室

(東京都北区王子1-11-1)

会費 会員 五〇〇円

一般 一〇〇〇円

今回の参加人員・24名まで

(今回は定員に達し締め切りました)

第23回宇宙生命研究分科会

第2回 異能科学会議

日時 平成26年12月7日(日)

10時～17時30分

会場 品川健康センター会議室

品川区北品川3・11・22

03・5782・8507

交通 京浜急行新馬場駅徒歩2分

JR京浜東北線大井町駅

東口から東急バス「渋谷駅」

行で「新馬場駅前」下車
会費 会員 五〇〇円(日本サイ科学会・サトルエネルギー学会・太陽の会会員)

一般 一〇〇〇円

(世話人 阿久津 淳)

関西日本サイ科学会
2014年忘年の放談会

非会員の方も大歓迎です。
十二月の研究集会はお休みです。

日時 平成26年12月6日(土)

午後5時30分より

場所 山海倶楽部

06・6443・0209

※大阪市西区京町堀1・4・3

TCF肥後橋ビルB1階

※参加ご希望の方には会場案内図をFAX等でお知らせ致します。

参加費 四五〇〇円

※12月3日(水)までに、事務局木村までお申し込み願います。

0797・22・6425

十二月本部例会のお知らせ

忘年会も兼ねた会員の体験 意見発表と討論の会

毎年恒例となっている一人の講師の講演ではなく、参加者の皆様からのUFO、超常現象、心霊現象、オーブ等サイ現象に関する目撃・体験や意見の発表、それらをテーマにした意見交換・討論等、気楽な感じで懇談会を開催致します。

今回最初にまとまって何か発表したい方一、二名に20分位ずつで口火を切って頂いて、引き続き出席者の皆様から自由に発表して頂きます。

皆様の中で、ご自分で撮った不思議な写真、ビデオ映像等をお持ちでしたら是非ご持参してください。(VHSテープやDVDビデオ等でお見せしたい方は、装置予約のため早めに事務局にお知らせ願います。)

スプーン曲げ等の念力、透視能力・予知能力などサイ能力に自信のある方、または友人、知人に能力者のいる方は是非お連れしてく

ださい。また、ご自分では気が付いていないのに、思いがけない超能力を発揮する方もおられるかもしれません。

特別講師はおりませんが、参加者の皆様の自由な発言でいつも楽しい会になりますし、終了後の懇親会も面白い話題で盛り上がりま

す。
参加費は、会員、一般とも千円です。最初にご参加願います。
※最初にまとめて発表したい方は、事務局にメール、またはFAX願います。

日時 平成26年12月13日(土)

午後1時半～5時

会場 北とびあ8階805会議室

交通 JR京浜東北線王子駅下車

徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

会費 一〇〇〇円

一月本部例会のお知らせ

THE SOURCE CODES ソースコードは何ですか?

講師 トレイシー・アッシュ氏

この講演は、超人的な潜在能力のフロンティアと、超人的な潜在能力発揮のために、「ソースコード」を入力する技術をご紹介します。

今回は3つの面から講義します。

(1) ソースコード・フィールドにおける科学的な証拠

(2) 高い振動数の、瞑想技術と超人的な潜在能力への移行の探求。何が結果を加速するか?

新しい人間のもつ潜在能力の卓越性は、危機的な世界的変化の解決策のために、どのように解決されるのか?

(3) サイ能力のデモンストレーションと調査

(4) 日本サイ科学会会員など参加者がソースコードを体験し、最後に「世界平和瞑想」を行います。

● トレイシー・アッシュ氏のプロフィール

世界で一万四千人以上のオピニオンリーダーに実施した「ライフ・ビジョン・コンサルテーション」はメーカーや意識の高い個人を変える。学校および療養所において三万人を超える個人のトレーニング。トレイシーは、意識のネットワーク、意識の療養所、ライフビジョンスクール、サイキックスクール、そして神聖なヒーリングの創造者です。

1999年から2015年の活動。ライフビジョン・コンサルテーション、ライフビジョンスクール、サイキックスクールが、ロンドンと東京で設立された。意識の療養所が、富士山、エジプト、ヨーロッパで開催される。シンクロニシティ・ジャパン(株)、サイキック研究の大学、生命の木フェスティバル、日本サイ科学会、マインド・ボディ・スピリット・フェスティバル、ロンドン・スピリチュアリティ・カレッジ等々におけるプレゼンター・コンサルタント。

※英国人のトレイシー・アッシュ氏は、卓越したヒーリング能力を

もち、多くの人々の意識の変容と魂の目覚めを起こしてきた、著名なサイキック指導者です。

日本サイキ学会本部例会で御講演が聴ける貴重な機会ですので、会員の皆様はご友人・知人をお誘いして、是非ご参加願います。

日時 平成27年1月10日(土)

午後1時半～5時

会場 北とびあ7階701会議室
交通 J R京浜東北線王子駅下車

徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

会費 会員 二〇〇〇円

一般 三〇〇〇円

学生 一〇〇〇円

関西日本サイキ学会
一月例会のお知らせ

手相の神秘と科学
— 脳の活用で手相が変わる —

講師 高峯 秀樹氏

日時 平成27年1月17日(土)

午後1時半～5時

会場 大阪科学技術センター
七〇一号室

交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車

北へ徒歩5分 靱公園内

会費 会員 二〇〇〇円

一般 三〇〇〇円

学生 一〇〇〇円

問合せ0797・22・6425
関西日本サイキ学会事務局まで

平成25年7月本部例会報告

千鳥学説を知るために

講師 酒向 猛氏

(医学博士)

最初に自分の経歴をご紹介致します。

岐阜県恵那市出身。1976年

順天堂大学医学部卒業、名古屋大

学第2外科入局、1982年名古屋

大学大学院医学研究科入学、主

に癌の組織培養や抗癌剤感受性試

験を研究、1986年名古屋大学

院修了、岐阜県立多治見病院外科へ赴任、1988年医学博士。岐阜県立多治見病院外科部長などを経て、現在は島村トータルケアクリニック副院長をしております。

これまで、外科医として癌の手術を一五〇〇位執刀し、上の先生の助手や下の先生の指導も含めれば四〇〇〇例位の手術経験があります。抗癌剤治療や緩和治療の経験も多数あります。

趣味としては神社仏閣巡り、空手二段。腸造血説を唱える千鳥学説研究者、ゲルソン療法研究者でもあります。

千鳥喜久男博士のプロフィールをご紹介します。

1899年(明治32年)岐阜県吉城郡上宝村に生まれ、官立盛岡高等農林学校獣医学科卒業。岐阜大学農学部生物学科主任教授、千鳥学説という異端の学説を唱えた。著書論文多数。勲三等瑞宝章受章。1978年病没(79歳)。

今のところ千鳥先生の学説は異端として認められていませんが、主な医学の定説の否定をご紹介致します。

1. 血液は骨髓で造られる(↑骨髓造血説の否定)

2. 癌は突然変異が原因で細胞分裂によって増殖する(↑癌の細胞分裂説の否定)

3. 赤血球は酸素運搬のために高度に分化した終末細胞である(↑赤血球終末細胞説の否定)

4. ウイルス・細菌など全ての生物はその親から生まれ、自然発生のことはない(↑生命自然発生の否定)

5. 生物進化は突然変異で生じた形質のうち、環境に適したものが、生存競争で生き残る事によって起こる(↑ダーウィン進化論の否定)

もう一つ千鳥学説には特徴的なことがあって、哲学があります。千鳥学説の8大原理をご紹介します。

1. 赤血球分化説(赤血球一元論)
赤血球は一番若い細胞であって、あらゆる細胞に分化する母体となる細胞である。赤血球から白血球やリンパ球などすべての細胞に分化していく。

(↓それに対して定説では、赤血球は酸素運搬のためだけに特殊に

分化した終末細胞で、これ以上分化することはないとする。)

病的な状態では、赤血球は癌や腫瘍や炎症細胞や癒痕組織にも分化するのです。この辺は「悪血こそ癌の原因である」という東洋医学の考え方と一致します。

実は哺乳類の赤血球は核がないのですが、哺乳類以外の脊椎動物には赤血球に核があります。人間でも胎児の血液には、有核赤血球が出現します。

千島先生は、細胞が未熟になると核がなくなると言っておりますが、哺乳類の赤血球に核がないのはなぜか？というのは今でも医学の疑問となっております。

千島先生はカエルの赤血球からいろいろな他の細胞が生まれるのを写真に撮っております。この写真は医学界では否定されています。

2. 赤血球と組織の可逆的分化説
栄養不足や大量出血後などの病的状態の時は、体の組織から赤血球に逆分化がみられる。

(↓既成学説は、骨髄脂肪からの赤血球への逆分化の状態を生理的造血と誤認している。)

3. バクテリアやウイルスの自然発生説

バクテリア(細菌や下等な単細胞生物)やウイルスは親がいなくとも、有機物の腐敗の状態から、その有機物を母体として自然に発生する。

(↓19世紀末に、フランスのルイ・パスツールは「白鳥の首型フラスコ実験」で生命の自然発生はないことを証明した。)



千島学説によれば、内部環境が悪化した患者の体内で死滅した細胞などから、MRS Aなどの細菌やウイルスが自然発生する。

日和見感染や菌交代現象の本質は、体内環境の悪化(免疫力低下

や循環障害など)により起こった細菌やウイルスの自然発生である。

私の経験によれば、「院内感染」というのがあります。私は院内感染というものは、外からばい菌が入るだけでなく、患者さんの中だけで菌ができるということがあると思います。というのは経験上、病院に入ると抗生物質が効かないばい菌が出てきて、それがいろいろな患者さんに移って、非常に寿命を縮めて困っているのです。

実は病院のICU(集中治療室)は重症な患者さんが入る一番清潔な区画ですが、そこに入るとMRS Aが一番多く発生するのです。そうするとICUが一番汚い場所ということになるのですが、医師は入念に手洗いをしてマスクをしてカバーをかぶり、手袋をして入るので、やはり免疫力の落ちた患者さんが沢山いて、その中でMRS Aが自然に発生するのではないかと推察します。

したがって、患者隔離や清潔操作(手洗い消毒など)を徹底してもMRS Aなどの院内感染を完全に防止することは不可能であると思います。

4. 細胞新生説

「細胞は細胞の分裂によって生じる」というウイルヒョウの説は誤りである。

細胞分裂から細胞は生じない。細胞は細胞構造をもたない有機物から自然発生する。

現代生物学の定説であるウイルヒョウの説を否定すると大変なことになるのですが、1933年、ソ連の女性生物学者レペシンスカヤはオタマジャクシの卵黄球から細胞が新生してくる現場を観察し、細胞新生説を唱えました。

当時のソ連でレペシンスカヤの細胞新生説は大論争を巻き起こしましたが、レイセンコやオパーリンなどの一流の生物学者に支持され、その論文は1949年スターリン賞生物学部門第一等を獲得しました。

レペシンスカヤの細胞新生説は一時はソ連の生物学会の定説となりましたが、レイセンコ学説の没落と時を同じくして、定説の座から滑り落ちました。

基本的に2つの哲学上の論争があります。

◎生気論的病理学

生命の営みには物理化学では解明できない見えない力が働いていると考える。↓中国の古典的東洋医学、インドのアーユルヴェーダ医学、古代ギリシャのヒポクラテス医学、ホメオパシー等。

◎機械論的病理学

生命の営みといえども物理化学の手法で完全に解明できる。今分らないことも物理化学がさらに発展すれば解明できる↓現代西洋医学。

細胞外の有機物質の塊から生命のある細胞が新生すると仮定すると、そこに機械論的生物学では説明のつかない神秘的な目に見えない生命エネルギーの存在を仮定する必要があります。

しかし、細胞新生がないとする最初の細胞はいかにして形成されたのか。現在の定説では、太古の海の中で神秘的とも思われる奇跡に近い出来事が偶然起きて、細胞が形成されたと考えています。

一つ面白いのは粘菌の生態です。アメーバー状の多数の単細胞で活発に動いて栄養を取り、栄養物がなくなると多数の単細胞が集合し

て一つの生物(接合体)となって移動し、その先で子実体を形成して、そこから胞子が飛んで発芽して、またアメーバー状になって活動する生態を繰り返します。粘菌の生態は戦前、博物学者の南方熊楠が生涯研究を続け、科学雑誌「ネイチャー」にも度々寄稿しています。最近の研究では、粘菌迷路や粘菌が描いた北海道の道路網などから、粘菌が知性をもっていることが証明されました。

千島先生は「胎盤は造血臓器である」と言っていて、母体の赤血球が胎盤絨毛に附着して胎盤絨毛の細胞に変化(細胞新生)し、絨毛内部の胎児赤血球に変化すると解説しています。

5. 腸造血説(骨髓造血説の否定)

赤血球は骨髓で造られるのではなく、生命力に富んだ食物が腸の絨毛で細胞新生によりできたものであり、腸こそが本来の造血臓器である。

生物の原型は腸と皮膚しかありません。外から食事を取り込んだ内胚葉の細胞が中に落ち込んだのが、原始的血液細胞となります。

系統発生学的には内胚葉である腸管が造血臓器であるのに、なぜ高等な生物になると造血臓器が中胚葉の骨髓に移行するのか? 疑問です。また、骨髓中の血液細胞の分裂頻度は計算上産生される血液細胞数に比較して少な過ぎますし、骨髓の造血幹細胞は完全には同定されておりません。造血幹細胞は他臓器にも末梢血中にも存在するのです!

モノラとは学術的には原始的生物群を意味し、食物モノラとは消化されドロドロになった消化管内容物を意味します。千島学説は、食物モノラから腸上皮細胞が細胞新生で造られます。消化管内の食物モノラが細胞新生により消化管上皮細胞となり、消化管上皮細胞が赤血球母細胞となり、さらに赤血球となります。腸で新生された赤血球は全身の細胞に分化すると考えられます。したがって、食物の持つ生命力が全身の細胞の生命力に直接影響するのです。

現代の栄養学では腸管で食物が消化液によって、分子のレベルまで分解されて血液に吸収され、肝臓で体の蛋白質に再合成されると考えられております。腸管造血説

が正しいとすると、腸の細胞は原始的なアメーバ様の性質を持ち、食物をかなり大きな塊で細胞内に取り込むと考えられます。生きた血液を顕微鏡で見ると、大きな食物の塊のカケラと思われる物質が見られるのです。もし食物が分子レベルまで分解されるのであれば、こういうことはあり得ないはずで、これも今の医学は完全に無視しています。

腸管造血説が正しいとすると、食べ物ではできるだけ生きていて新鮮な状態で食べることが健康に望ましいこととなります。新鮮な食物は生命力を持っています。煮たり焼いたりして生命力がなくなつた食物を食べるのは自然界では人間だけです。

6. 遺伝学の盲点(生殖細胞の血球由来説)

生物が生まれてから一生の間に、その環境によってはぐくまれた形質は子孫に遺伝する(獲得形質遺伝の肯定)。

精子や卵子などの生殖細胞は体の組織と別物ではなく、赤血球が変化してできる(生殖細胞の赤血球由来説)。

今の遺伝学では獲得形質は子孫

に遺伝しないとあっております。また定説では、生殖細胞は体細胞とは別物で、生殖細胞は子供の頃、原始生殖細胞ができて、それがそのまま辜丸や卵巢に保持されて、一生変わらないのだということになっております。

ラマルクの「用不用説」は獲得形質の遺伝を肯定したのですが、メンデルは「メンデルの法則」優性の法則、分離の法則、独立の法則」でこれを否定し、遺伝形質は遺伝粒子(後の遺伝子)によって受け継がれると提唱しました。

千島先生は獲得形質の遺伝を肯定する「ルイセンコ学説」を支持しています。獲得形質の遺伝があることは学問的に証明されていませんが、それがないことも証明されております。

生物の意志により形質が変化し獲得形質が遺伝すると仮定すると、生物の主體的な意志によりDNAが変化することになり、そこには機械的な発想では説明のつかない見えない生気論的な神秘的エネルギーを想定する必要があります。これは現在の機械論的生物学理論からは認められないのです。

7. 進化論の盲点

生物進化の最も重要な要因は、環境に適応した強い生物が生き残ったのではなく、同じ種類の生物の助け合い、または違った種類の生物の助け合いという共生現象である(ダーウィンの進化論への批判)。

8. 心身一如の生命弁証法(自然や生命の波動・螺旋的傾向)

科学者の中には「哲学は科学者にとつて、無縁のものだ」と考えている人が多い。しかし、科学と哲学は実は密接な関連を持つている。ある意味では不可分な一体である。今日、科学を離れて哲学が成立しないと同様に、正しい哲学なしでは科学の正しい発展はありえない。

万物は流転する…すべての事象は時と所の変化に応じて、絶えず流転し変化する。

真の美は少し歪み(不相称性)を含んだ相称である。

矛盾対立とその統一。動的平衡。限界領域の重要性↓排中律の否定可逆性(繰り返し)の原理。調和と波動螺旋性。等々。

第三百八十九回関西日本サイ科学会研究集会報告

よみがえる日本・古事記以前のくにの姿

講師 平岡 憲人氏

とき 平成26年6月21日

ところ 大阪科学技術センター

講師プロフィール

昭和41年大阪生まれ。清風高校から東京大院単位取得退学、博士(工学)。現在、清風情報工科学院校長。専門学校でITと日本語教育をするかたわら、憲法と古日本語の研究を行っている。2006年に古文書「ホツマツタエ」に出会い、「よみがえる日本語 ことばのみなもとラシテ」(明治書院、共著)を発表。

「目次」

イントロダクション

1. 日常に潜む謎

身の回りの「通説」

仏教は仏教なのか

ひらがなは平仮名なのか

和の精神とは

不思議な言語

2. ラシテ文献の再発見

ラシテとは何か

ラシテ写本の探索

既発見の写本

ラシテを引用した文書

ラシテの字形を伝える文書

「ラシテ文献」の伝承

ラシテ文献の主な内容

3. ラシテ文字の再発見

「ラシテ」文字とは

ラシテのデザインと組み立て

よみがえる日本語

ラシテのイメージ

擬音・擬態語とラシテ

語彙・語源とラシテ

文法とラシテ

4. ラシテ文献と日本神話

和歌の意味

カミとは何なのか

三種神器の意味

国家統治の基本

和の精神とヤマトの真意

まとめ

我が国には、カタカムナや阿比留文字など様々な神代文字(古代文字)が伝えられているものの、広く学術的に真実と認められているものはない。私も、神代文字は

単なる後世の創作であり、その関連文書も後世の偽書に過ぎないと考えていた。しかし、2006年の秋にたまたまの出会いにより「ヲシテ」という文字とそれで書かれた「ヲシテ文献」に出会うことになった。先人の研究を参考に読解と分析を重ねた結果、ヲシテ文献が真書であるかどうかは置くとしても、ヲシテ文字の真実性は否定出来ないという結論に至った。その研究成果を共著にて発表したのが「よみがえる日本語——ことばのみなもとヲシテ」（明治書院刊）である。

講演会では、ヲシテ文献とは何か、なぜヲシテ文字が真実というのかということを紹介した。その上で、ヲシテ文字に込められた哲学を踏まえて記述されているヲシテ文献の内容から、我々の祖先の姿・お考え、つまり、古事記以前のくにの姿を紹介した。

●ヲシテ文字の真実性

ヲシテ文字がなぜ真実であるといえるのかは非常に簡単で、ヲシテ文字によって従来解けなかった日本語の謎が解けてしまうからである。その例として、単語の意

味をヲシテ文字の字形から説明できる、つまり、ヲシテによって語源がわかるということ、文法をヲシテ文字の字形から説明できる、つまり、ヲシテによって助詞や活用の意味がわかるということを紹介した。

わ	や	さ	ら	た	ま	な	は	か	あ			
w	y	s	r	t	m	n	h	k	φ			
⑮	⑭	⑬	⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥			
わ	や	さ	ら	た	ま	な	は	か	あ	①	a	あい
わ	ゐ	し	り	ち	み	に	ひ	き	い	②	i	い
ん	ゆ	す	る	つ	む	ぬ	ふ	く	う	③	u	う
	ゑ	せ	れ	て	め	ね	へ	け	え	④	e	え
を	よ	そ	ろ	と	も	の	ほ	こ	お	⑤	o	お

ヲシテ文字は、5つの母音に対応する基本文字と10の子音に対応する基本文字を合成した48の文字で成り立っている（右表）。紙幅の関係で割愛するが、母音と子音の

組み合わせという考えようによってはハンゲルからの借用とも考えうる構成であるが、ハンゲルは単なる発音記号で字の形で意味を表していることはない。対して、ヲシテは字の形が意味に直結しているという根本的な違いがある。

助詞について

講演会で紹介した助詞の例を簡単に述べる。そもそも助詞は国文学法においても評価が定まらない。分類も定まらないし、どこからどこまで助詞なのかも研究者によってまちまちである。何より「助詞の意味」は拡散するばかりで説明すら困難な状況である。ところが、ヲシテ文字の分析からは次のことがわかった。

1. 言葉の意味や文法は「イメージ」でできている
2. この「イメージ」を文の構造に使うのが助詞である

これまで国文学法では、助詞の意味を論理や概念で分析しようとしてきたが、アプローチを変えてきたことで、単純に説明できるようになった。次の例は、終助詞である「や」「か」「さ」「な」をヲシテの字形で説明するものである。

助詞の働き

- ほんとにうれしいや
- 食べますか？
- そのような無理さ
- 食べるな

ヲシテ <http://woshite.com>

⑤文法とヲシテ

- 助詞の働き
- ほんとにうれしいや
- 食べますか？
- そのような無理さ
- 食べるな

ヲシテ <http://woshite.com>

「や」「か」「さ」「な」は、いずれもア段の助詞である。母音の「ア」の部分共通であるので、

この4つの助詞の意味の違いはすべて子音部分から生じていることになる。ここで、ヲシテ文字の子音相当の字形に着目する。

や — ⑭「一」の部分が「上」を指し、「二」の部分が「止めて」いる。

か — ⑦「二」の部分が「上下」をつなぐ。

さ — ⑬「一」の部分が「止め」ている。

な — ⑨「二」の部分が「止め」、「二」の部分が「上下」をつなぐ。

ここから意味に転じて

や — ⑭直上の単語を参照して言葉の流れを止めるので、上の単語を強調することになる。

か — ⑦直上の単語を相手に投げかけるので、上の単語に疑問を呈することになる。

さ — ⑬直上の単語をささぎっているので、上の単語を否定することになる。

な — ⑨直上の単語をささぎって否定しておいて相手に投げかけるので、上の単語を禁止すること、相手に求めることになる。

ヲシテ文字の字形を使うと、助詞の元のイメージが浮き上がって、このように明瞭に解釈できる。



擬音語・擬態語

講演会ではより実感しやすいよう、擬音・擬態語をつかって説明を試みることもした。擬音語・擬態語とは、「ゆらゆら」とか「ふらふら」とか主に2音を重ねて、何かの様子をあらわす言葉である。一般に、この擬音・擬態語の意味を外国人に伝えるのは非常に困難だと言われている。ところが、ヲシテ文字を使うと簡単にその意味を知ることができる。

③ 擬音・擬態語とヲシテ2

■ ゆらゆら ゆらゆら
■ ゆさゆさ ゆさゆさ
■ ふらふら ふらふら
■ ふさふさ ふさふさ
■ むらむら むらむら
■ くらくら くらくら
■ たくたく たくたく
■ すすすす すすすす

ムシテ <http://woshite.com>

③ 擬音・擬態語とヲシテ

ゆらゆら
ゆさゆさ

ムシテ <http://woshite.com>

右の図に上げたのは、縦に「ゆらゆら」と「ゆさゆさ」という擬態語をヲシテ文字で書いたものである。この例では、この2つの単語の違いは2・4音目の「ら」と

「さ」だけであり、かつ母音は同じなので、2・4音目の子音部分だけが違う。つまり、「ゆらゆら」と「ゆさゆさ」の意味の違いは、2・4音目の子音部分から生じていることになる。ここで同様に、ヲシテ文字の子音相当の字形に着目する。

ら — ⑫光が放射するイメージで、バラバラになることを表している。

さ — ⑬「一」の部分が「止め」ている。

1・3文字目の「ゆ」は、

ゆ — ⑭「二」の部分が「上」を指し、「一」の部分が「止めて」いる。

③ 動くイメージで、⑭が指す「上」方向に動くことを表している。

「ゆらゆら」と「ゆさゆさ」は、「ゆ」によって上の方へ動くあるいは「ゆるむ」ことを現している。その後「ら」ならば、その動きがばらばらになる、「さ」ならば、その動きを受け止める、ことを表している。つまり、「ゆらゆら」は上方向にゆるんでバラバラになるイ

メージ、「ゆさゆさ」は上方方向にゆるんでそのまま受け止められるイメージである。

実際にも、かげろうは「ゆらゆら」しても「ゆさゆさ」はしないが、空気のゆらめきが上下方向一方向ではないことに合致しているのだらう。

講演会では、同様に、「ふらふら」「ふさふさ」「むらむら」「くらくら」「たくた」「すたすた」などをラシテの字形のイメージで説明可能であることを示した。

このように、語源、助詞、活用、擬音・擬態語など、従来解明のできなかった日本語の諸現象を、「ラシテ文字」の字形で説明できるといふ事実が見出された。このことを、少なくとも奈良時代以降正史の中では位置づけられもしていない「ラシテ文字」が奈良時代以降に成立し、それによって日本語の諸現象が整理されるようになった、と解釈するには相当の困難がある。そうではなく、日本語の成立のころに「ラシテ文字」のイメージが使われて日本語の諸現象が(長い時間をかけて)整理されたが、その後漢字の流入によって「ラシテ文字」が使われなくなつて千数百年

がたち、いま「ラシテ文字」の再発見によって日本語の諸現象の意味を再び解釈できるようなつた、とするほうが合理性が高い。ゆえに、「ラシテ文字は真実である」と結論したのである。

●古事記以前のくのにの姿

ラシテ文献は、概ね古事記・日本書紀と同様のいわゆる「日本神話」にあたる部分を、13万文字の長歌で記述している。ラシテ文献では、天上の物語ではなく、日本列島上の実在の人物による歴史として記述されている点が決定的に異なっている。さらに、日本神話上の諸概念をラシテの文字に込められた哲学で述べている点が違う。

講演では、ラシテ文献をもとに、我々のご先祖の姿・お考え、つまり、古事記以前のくのにの姿をかいつまんで紹介した。ここでは、その中でも最重要な「カミ」と「三種神器」について紹介する。

カミについて

カミとは、いまや漢字で「神」と書くのが当たり前になっている。明治維新以降、「神」を「God」と訳した結果、西洋諸国に多大な

③三種神器の意味

■ 皇位継承の最重要御物(代々の伝承、神皇正統記 水戸学)

■ ところが、何の象徴なのかはわからない

■ ツルギ モタカラ コレイカ

■ なぜ漢語で呼んでいるのか?

ラシテ <http://woshite.com>

②カミと何なのか?

■ シャーマニズム? アニミズム? 専制君主崇拜?

■ 古代シナ文字ではどうか?

■ 我々の語感ではどうか?

■ ラシテ文献における「カミ」の基本概念「祖」

ラシテ <http://woshite.com>

えば全くそうではない。白川静の研究成果によれば、古代シナ語において、「神」の「申」の部分は稲妻を現しており、「示」の部分はその超常現象への捧げ物を表している。

「神」とは超常力へのおそれを表すものであり、これを人が体現すれば当然のことながら、超常的な権力ですべてを差配する専制君主、現実にもそうであったようにシナ皇帝の姿になる。簡単にいえば、「神」≡「God」であるわけで、「God」という訳が悪いどころか、2000年ほど前に当ててしまった「神」という字自体がずれているのである。

ところが、我々の日常生活における「カミ」というのは、神棚にあるのが神様であり、氏神様といつても超常力でもない。逆に、ちよつと偉くて道理を極めているひとは「経営の神様」「野球の神様」などと崇められるし、「おかみ」さんは尊敬をあつめるお母さんのことである。つまり、「神」というシナ文字が表している概念とは相当に異なっているのである。これまでは、アジアの先進国は我が国だけであり、漢字は中国のものとい

うより日本語の記述文字として、我々日本人が自由自在に解釈することが当たり前であった。しかし、中華帝国が勃興した結果、漢字は中華の言うように解釈する時代がやってくる。そうなった時、「カミ」を「神」とあてても、英語に訳して「God」と訳しても、結局外部からは理解されない。それどころか、中華に「神」とは「超常力のこと」と定義されて、それにしゅしゅ従うようであれば、日本民族・大和民族のアイデンティティは消滅することになる。

- ヲシテ文献を紐解いてわかったことは、我々の「先祖は「カミ」という言葉を概ね次の4つの意味で使っていたということである。
1. 先祖 — あえて漢字を当てれば 「祖(カミ)」
 2. 偉い人 — あえて漢字を当てれば 「上(カミ)」
 3. 自然神 — あえて漢字を当てれば 「神(カミ)」
 4. 大自然 — 漢字はない

例えば、日本書紀や古事記の冒頭部分は「カミヨ(神代)」と呼ばれているが、これは「祖代」とでも

あてべきであり、なんてことはない、昔の先祖の時代ということである。「カンナガラノミチ(神ながらの道)」というの、「祖ながらの道」「上ながらの道」ということで、昔ながらの生き方、昔の偉人の生き方、という意味である。その上で、ここを静めて無心となれば、大自然と合一して、「無為自然」となる。仏教でいうところの悟りの道である。

とりわけ注意すべきことは、4つ目の「大自然」には「人格がない」ことである。大自然は生命の根源であるが、静かにじっと見守っている存在である。「カミ(祖)」をどんだん、カミのほうに遡っていく、カミのカミのカミのカミ・・・と。そこにあるのは、我々を静かに見守っている無私の存在であるところの「アメミヤヤ」だとされている。「ミヤヤ」という言葉にそんな意味が込められている。あらゆるものはその現れであるから、人々は親戚であり、動物も植物もいけとし生けるものはすべて親戚であり、石や山や水も親戚である。こうして、八百万の神という我々の日常世界につながっているのだ。このような「カミ」という言葉

を再自覚してはじめて、我々はこのグローバル社会において、アイデンティティを保ち続け、「現存する最古の文明の直接の末裔」として世界の人類に貢献できるのではあるまいか。

三種神器について

もう一点、「三種神器」についてである。三種神器は皇位継承の重要な宝物とされている。今上天皇におかれても、昭和天皇崩御の後、直ちに剣璽等承継の儀で三種神器を継承された。また、水戸学においては、三種神器のありかをもとに南北朝時代は、南朝こそが正当とされる根拠になっているのはご承知のことと思う。しかるに、この「三種神器」がいかなる事柄の象徴であるのかということ、もはや失われている。なぜこの3つは皇位の象徴として妥当なのかという理由がある。

ヲシテ文献により、それは明らかにになった。「八咫瓊勾玉(ヤサカニノマガリタマ)」は、そもそも「トノヲシテ」の象徴であった。「トノヲシテ」とは、後世「和の精神」と訳されたものである。詳しい説明は省くが、「トノヲシテ」とは、

「まごころにもとづいて生きる」ということであり、そのために「こころまっすぐにたもつ」ということを、ご先祖の徳とともに自覚する、そのことの象徴が「勾玉」である。

「叢雲劍(ムラクモノツルギ)」は、そもそも「悪人のみを切る道具」として宝物になっている。善人は切らない、悪事を働いて社会的命運の尽きたものだけを切る道具である。ヲシテ文献が紡がれた当時すでにツルギというのは人を切る道具なのに、「ツルギ モタカラ コレイカン」と疑問を呈する声があり、それに丁寧に答えた説法が、ヲシテ文献に収録されている。武力を司るものは、無闇矢鱈と人を切ってはならない。悪人であっても、教え諭して悔い改めさせよ。何をやってもどうにもならないなら、その時はこのツルギで成敗せよ。という説法である。なぜ武力はあるのか、という本質を表すのが「劍」であり、だからこそ宝物なのである。

「八咫の鏡(ヤタノカガミ)」は、正邪を見極める鏡である。「カガミ」の「カ」が輝くモノ、正しいものを現し、「ガ」が陰つたもの、間違つたものを現して、正邪の見

極めということ象徴するのが「カガミ」なのである。社会のリーダーとなるものは、自分の心が曇っていないか、私心に走っていないか、常に確認しなければならぬ。日々自らの姿をカガミに写し、こころのクマを見て反省する。記紀にもいう「カガミをみる時は天照大神を見るように」、というのは、酸いも甘いも見極めたあの人の前ではどんなウソも見破られるというような穏やかなしかし眼光鋭いおじいちゃんがいて、あたかもその前に座って「わしの目をよく見て話してごらん」とでも言われているような心持ちで、カガミを見よ、ということである。すると、自然に、自分のウソに気づき、道を外れることはないであろう。この自己反省の本質を表す象徴が「鏡」である。

このような、3つの徳を表す象徴が三種神器であり、国家の統治を行うものにとつて心に刻まねばならない徳であるからこそ、この三種神器が代々継承されてきたのである。「三種神器」の徳を再自覚してはじめて、我々はこのグローバル社会において、アイデンティティを保ち続け、「現存する最古の

文明の直接の末裔」として世界の人類に貢献できるのではあるまいか。

●おわりに

最後に、三種神器という名前について述べたい。ヲシテ文献によれば、これは「ミクサタカラ」「ミクサノカンタカラ」と申し上げた。これに漢字をあてて「三種神器」となり、いつのまに音読みすることになって今に至っている。しかし、漢字の音読みとは、古代シナ語にほかならない。今から2000年がたち、我々の子孫が「三種神器」ならぬ「スリー・ホーリー・トレジャー・THT」とでも呼んでいたとしたらどうであろうか？ 我々は今それと同じ愚行を行っている。

そもそも、我々は「ニホンジン」あるいは「ニッポンジン」なのか？ 日本（ニホン、ニッポン）も、なんと音読みであり、古代シナ語である。ヲシテ文献により、当時我が国は「ヤマト」「ヒノモト」と自称していたことも判明した。自らのアイデンティティを取り戻すには、まず自らが「ヤマトのタミ」「ヒノモトのタミ」であるとい

う自覚から再出発されたいと、乞い願う。



これまで日本文化の起源は漢字であると漠然と思っていたが、漢字以前の文化が存在し、そこに我々の心のよりどころもあるということを示して頂いた。素晴らしい考え方に会えて感謝しています。

当日の参加者は会員11名、非会員29名、通訳1名、合計41名でした。

今回の記録はCD（ウインドウズパソコンかCDプレーヤーで聞くことができます）になります。価格2000円（送料込み）。事務局（0797・22・6425）まで。

（関西日本サイ科学会会長
河野明夫）

本部例会ビデオ映像販売のお知らせ

ハイビジョン映像・音声ファイル（約3時間）を記録したUSBメモリーでお送りしますので、ほとんどのデスクトップあるいはノート型のウインドウズ・パソコンで見ることが出来ます。

価格 1本につき 三五〇〇円
（送料含む）

以下のビデオ映像から、御注文願います。

◎2013年4月本部例会

講師 大野百合子氏

「宇宙図書館（アカシツクレコード）から見た世界の仕組みと私たち

―あなたは誰なのか―

◎2013年5月本部例会

講師 浪平博人氏

「イメージによる瞬間教育」

◎2013年6月本部例会

講師 松原秀樹氏

「アレルギーを治す秘訣」

◎2013年7月本部例会

講師 酒向猛氏

「千鳥学説を知るために」

◎2013年9月本部例会

講師 奥野節子氏

「ブラジルの奇跡のヒーロー

ジョン・オブ・ゴッド」

◎2013年10月第23回全国大会

シンポジウムテーマ

「サイと自然治癒力」

◎2013年11月本部例会

講師 小久保秀之氏

「生体センサによるサイ研究

―超能力研究の最前線―

◎2014年1月本部例会

講師 小川博章氏

「魂の発見」

◎2014年4月本部例会

講師 西川真知子氏

「生命の智慧 アーユルヴェーダ

―アーユルヴェーダから見る生命

のすばらしさ―

◎2014年5月本部例会

講師 岩根和郎氏

「般若心経とサイ科学」

◎2014年6月本部例会

講師 秦西平氏

「気超科学と宇宙生命哲学

新病気学」

◎2014年7月本部例会

講師 小林信正氏

「ラップ現象の究明―オーブとの

関連性について―

◎2014年9月本部例会

講師 石川允朗氏

「死後の世界と輪廻転生について

の一考察」

◎2014年10月第24回全国大会

シンポジウムテーマ

「サイと天変地異」

メールまたはFAXで左記に掲載のメールアドレス（またはFAX番号）に、「2010年〇月〇〇〇氏ビデオ購入希望」と記して、郵便番号、住所、氏名、電話番号を書いて、御注文願います。
2週間以内に発送致します。

E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp
FAX 047・330・4091

お支払いは、到着後同封の郵便振替用紙で8日以内にお振り込みただければ、結構です。



《本部月例会・全国大会講演録の販売》

本部月例会・全国大会のICレコーダーによる録音の音声ファイル（拡張子wma）なので、聞くためには「CD、DVDプレーヤー」の付いたウインドウズ・パソコンが必要になります。

以下のリストから興味のある講演、今一度聞いてみたいものを御注文願います。講演時間は平均3時間前後で質疑応答も含まれます。マイクからの直接録音ではなく、やはり会場のスピーカー音の録音ですので、完璧な鮮明さではありませんが、もちろん内容は普通に聞き取れます。当日放映されたビデオやOHP等で紹介された図や写真は付いておりません。

講演録の代金は1回分2,000円（送料等含む）です。お送りするのは講演録の入った「CD-R」で1枚につき6、7回分が入ります。（一部のノートパソコンを除いて、大抵のウインドウズ・パソコンには、「CD-Rファイル」が読めるプレーヤーがついております。）

※御注文は郵便局にある「郵便振替用紙」の通信欄にご希望の講演録の『年／月 講師名』と金額（1回分2,000円）を記入し、郵便振替口座 00100-2-15344 加入者名 日本サイ科学会にお振込願います。

あるいは、メールで先に事務局 office21@psij.mail-box.ne.jp に注文されても結構です。

- 2010/10/10 第21回全国大会 シンポジウムテーマ「2012年問題とサイ」
- 2010/11/14 秋山真人氏「夢診断と未来予測」
- 2010/12/12 宇治橋泰志氏「新たな予防医学を目指して」
- 2011/ 1/ 8 新年会も兼ねた会員の体験意見発表と討論の会
- 2011/ 2/12 石川和孝氏「世紀末的神示と予言の陰陽道的思考」
- 2011/ 5/14 赤松瞳氏「最新脳科学と透視能力」
- 2011/ 6/12 井出治氏「未知エネルギーの研究とチャネリング」
- 2011/ 7/18 古村豊治氏「なぜあなたに大きな奇蹟が起こらないのか？」
- 2011/ 9/10 鈴木俊輔氏「3・11新文明の幕開け～日本人の使命～」
- 2011/10/ 9 創立35周年記念大会シンポジウムテーマ「パワースポット」
- 2011/11/12 小林信正氏「心霊現象について」
- 2011/12/10 忘年会も兼ねた会員の体験意見発表と討論の会
- 2012/ 1/14 ミッツィ植田氏「縄文スピリットでサバイバル」
- 2012/ 2/11 小林正典氏「サイ科学に関係した電気・磁気の研究の紹介」
- 2012/ 4/14 ロン薄葉氏「オーブ現象とこれまでの歩み」
川崎利男氏「オーブ観察7年間その傾向と残された課題」
- 2012/ 5/12 徳永康夫氏「命とソマチットと般若心経の探検」
- 2012/ 6/10 松永修岳氏「密教開運術「強運の成長戦略提言～氣を高めれば運はやってくる～」」
- 2012/ 7/14 中島敏樹氏「水と珪素の集団リズム力」
- 2012/ 9/ 8 ホンマシュウジ氏「未曾有の天災・人災を目の当たりにして、サイ科学は何ができるのか!？」
- 2012/10/14 第22回全国大会 シンポジウムテーマ「コンタクト」
- 2012/11/10 藤森博明氏「気(生命エネルギー)の実在と能力」
- 2013/ 1/12 志賀一雅氏「 α 波のコヒーレンシーについて」
- 2013/ 2/ 9 宇治橋泰志氏「疾病を根本から改善する新治療法を求めて」
- 2013/ 4/13 大野百合子氏「宇宙図書館(アカシックレコード)から見た世界の仕組みと私たち
—あなたは誰なのか—」
- 2013/ 5/11 浪平博人氏「イメージによる瞬間教育」
- 2013/ 6/ 9 松原秀樹氏「アレルギーを治す秘訣」
- 2013/ 7/13 酒向猛氏「千鳥学説を知るために」
- 2013/ 9/14 奥野節子氏「ブラジルの奇跡のヒーラー ジョン・オブ・ゴッド」
- 2013/10/13 第23回全国大会 シンポジウムテーマ「サイと自然治癒力」
- 2013/11/ 9 小久保秀之氏「生体センサによるサイ研究—超能力研究の最前線」
- 2014/ 1/11 小川博章氏「魂の発見」
- 2014/ 4/12 西川真知子氏「生命の智恵 アーユルヴェーダ —アーユルヴェーダから見る
生命のすばらしさ—」
- 2014/ 5/10 岩根和郎氏「般若心経とサイ科学」
- 2014/ 6/ 8 秦西平氏「気超科学と宇宙生命哲学 新病気学」
- 2014/ 7/12 小林信正氏「ラップ現象の究明～オーブとの関連性について～」
- 2014/ 9/13 石川允朗氏「死後の世界と輪廻転生についての—考察」
- 2014/10/12 第24回全国大会 シンポジウムテーマ「サイと天変地異」

る。いわゆるプラズマであるが、大気電気学の分野では、大気陽イオン、大気陰イオン、電子と呼ぶ。大気イオン群の中にエアゾール(埃、微細塵)を入れると、大気電界やイオン間の相互作用などにより、大気陽イオンボールと大気陰イオンボールの組み合わせができる。いま、ベクトルが上向きで右方向回転のものを陽イオンボール(電子に相当)とし、下向きで右方向回転のものが陰イオンボール(陽電子に相当)になる一対を想定する。中でも、周波数が近赤外線量域に該当するもの(活性化エネルギー、約1.5eV)を対象になる。この一対は、右方向回転の巴型状組み合わせであるが、一般には裏表、左右、様々な組み合わせの下で、全体として中和している集団(群)がオーブである、と推定している。なお、以上の説明には電子を用いたが、実際には、光子群の組み合わせとして存在するのであろう。

(2)「たまゆら」の形成

大気イオンボールは、ほぼ近赤外線量域の周波数を持ちながら、回転しながら進行・増大しているが、陰と陽の組み合わせで、両者間の押し合いの力(エネルギー)がほぼ平衡・中和する(陰+陽=0)まで活性化させた時に零場が出来る。つぎに、これが絞り込まれて点状になった時を零点と呼ぶ。なお零点はマクロ現象がミクロ現象に変換する箇所でもある。ここに「たまゆら」の核が形成され、撮影者から放出されるサイ(気)と核が共振・共鳴(同調)して「たまゆら」になる(生起する)、と推定している。

(3)「たまゆら」の内部模様

「たまゆら」は、外部からの光エネルギーの助けにより、次第に進行してカオス・アトラクターを画き、オーブ(たまゆら)の円形内模様を形成する事になる。カオス・アトラクターの内容(模様)を決めるものは、未知なる存在(SG)であろう、と推定している。なおサイ(気)は、電子、陽電子、微細身素粒子(オーラ)群から構成されている。電子は空気中でも割合に安定に存在しており、陽電子は宇宙線や各種の γ 線照射によって得られる。この時のオーラはエーテル(エネルギー)類似である。

カオス理論に基づいて、オーブ(たまゆら)画像のフラクタル解析を実施した。一例として、オーブ(たまゆら)の内部模様は、フラクタル次元で3種類に類別できることが判った(解析方法と図の説明は、サイ科学、Vo.36、No.1参照、2014年末発行予定)。

5. 結論

近赤外線領域の波長により、オーブ(たまゆら)を撮影できることから、オーブ(たまゆら)はこの領域に潜んでいる事が判る。しかし、この波長域は肉眼では見ることは出来ない。オーブ(たまゆら)を、撮影し難い理由は、カメラが、近赤外線領域をカットしている為であると言える。つまり、オーブがすぐ傍まで来ていても、高画素数カメラ(1610万画素数)では認知出来ない(写らない)場合がある。しかし低画素数カメラ(220万画素数)には写る傾向がある。小雨の降りはじめ、又は、スプレー噴霧水があると、出現しやすい。水の蒸発はオーブの誘発になっていると考えられる。しかし、オーブ(たまゆら)と水滴とは異なることが分かった。オーブ(たまゆら)と意識の間で直接の情報交換がある、等の性質を持っているので、この現象は、マクロPKの一種であり、仲介する物質はサイ(気)であると判断している。オーブにサイ(気)が加算されたものを「たまゆら」と呼ぶことにする。なお、オーブ上の「零点」で「たまゆら」の核が形成され、撮影者から放出されるサイ(気)と核が共振・共鳴(同調)して「たまゆら」になる(生起する)、と推定している。オーブ(たまゆら)は、外部からの光エネルギーの助けにより、次第に進行してカオス・アトラクターを画き、オーブ(たまゆら)の円形内模様(表情)を形成する事になる。カオス・アトラクターの内容(模様)を決めるものは、未知なる存在(SG)であろう、と推定している。さらに、カオス理論に基づき、オーブ(たまゆら)画像をフラクタル解析した結果として、オーブ(たまゆら)の内部模様をカオスとして類別できることが判った。つまり、(A)シングルピークの模様、(B)ダブルピークの模様、(C)マルチピークの模様、等である。

果は、意識とオーブとがマクロPK現象として同調したために得られた、と判断できそうである。

(2) 場所と時間が異なる

撮影者の意識は時間や空間の枠組みを超えている。撮影が同一条件であっても、日にちが異なる場合には、当然ながら、意識は同一ではない。従って、写されるオーブは、それぞれが別の模様(表情)になると考えられる。一例として写真No.2531、2357、2541を示す。No.2531は上記と同一のカシオ(1610画素数)、2014年4月3日(木)、福島市内、小雨の降り始め、夜6:45~。写真の全面にわたり大、中、小直径の多数の円形オーブが写っている。左側と右側にある大径のオーブ(たまゆら)をみる。ボケは在るが2~3本の円形状干渉縞模様を取り囲んで、全面にマンダラ模様が刻まれている。これ以外のオーブ(たまゆら)にもほぼ同一模様が写っている。

次の一例をみる。写真No.2541は福島市の実験室横、2014年6月6日(金)、小雨の降り始め、夜8:03~。写真の中央に大直径が1個、右側に中径のオーブ(たまゆら)が、2個写されている。中央の大径は、左端の一部が欠けているが、唐時代の青銅鏡状で、中央左よりに凸型円形部(オーブの核、又はエアゾール)をもっている。中径のオーブには、欠けは無いが、大径のものとはほぼ同一の模様を持っている。以上に示した様に、写された写真のそれぞれには、ほぼ同一の模様が写されている。検討し、判断すると、撮影者の意識と体外のオーブとが(マクロPKとして)同調して模様が形成された、と考える事もできるだろう。

(3) 同一条件で、撮影者が別

同一条件で撮影しても、撮影者が別々の場合には、撮影者の意識は異なるので、別の模様が写されるだろう、と考えられる。この推定を確かめる為の実験・撮影が実施された。一例を示す。2014年6月15日(日)、上海市静安寺大仏殿内、晴れ。10:00~10:05、大仏とその天井を、Aが写す(ニコンE-2200、220万画素数)。続いて、Bが同一条件で、写す(キヤノンIXY、8105、1610万画素数)。Aの写真No.2075は、大仏の斜め前方像と天井を写している。明白なオーブ

(たまゆら)は3個で、円形内模様は、ほぼ同一の円内模様、凹凸の青色とピンク色の混ざり合う点群(光の周波数の相違)からなる。次にBのNo.1369を見る。大仏の正面像と天井をとらえた写真の胸と天井に2個のオーブ(たまゆら)が撮影されている。円形内模様(表情)はほぼ同一で、ボケのある同芯円状干渉縞模様の唐鏡状で、ヘイロー(halo)もほぼ同一模様である。以上、同一条件で撮影した場合でも、撮影者が異なると、オーブ(たまゆら)の模様が異なる場合のある事がわかった。

4. 検討と考察

サイ(気)は、周波数(波長)の異なる光子群の集合から構成されているが、素粒子の性質を持つ(電子群、別報)ので、観測・測定する以前は、その存在は不確定である。空気成分の電離とエアゾール(埃、微細塵)によって形成された大気陰陽イオンボール(オーブ)の上に、ゼロ場(ゼロ点)が形成され、そこに「たまゆら」の核ができる。撮影者の変性意識状態(ASC)時に皮膚から放出されるサイ(気)とオーブ上の「たまゆら」の核が同調して「たまゆら」になる。そして、カオス・アトラクターを伴って成長して写真に写る。大気陰陽イオンボール形成(オーブ)は物理現象であり、これにサイ(気)が加算されて「たまゆら」(マクロPK)になる、と判断・仮定している。

(1)「オーブ」の形成

地球を取り巻く大気層は、宇宙線の照射のために電離していて、上層部は陽(+)、地表部は陰(-)に帯電している。この為に地球は電磁気的には巨大な球形・地球コンデンサー(約30万V)として存在している。厚い雷雲がやってくると、雲の上側は(+)、下側は(-)なので、地球表面上は(+)に帯電するようになる。雨が降り始めると、電離はさらに進む。なお地球表面上の大気の大部分は水蒸気と二酸化炭素である。水蒸気が多くなると凝固して雲や雨になるが、凝固には核が必要であり、これをエアゾール(埃、微細塵)が分担している。水(H₂O)を電離するとH(陽イオン)、OH(陰イオン)、電子(-)にな

オーブ(たまゆら)形成・出現の意識面

(Toward Formation and Emergence of Orb by Consciousness Approach)

佐々木 茂美 苗 鉄軍

呼びかけに応じて答えてくれる、意識もっている、霊的な存在である等、オーブの形成・出現には人格要因が関係すると言われている。然しそれらの仕組みや機構については、いままでは、科学的に説明する事は無かった様に思う。そこで今回は、撮影者の意識(無意識)がどの様な仕組みでオーブに関与するか、について推定し、仮定を進める事にした。

1. 従来の結果と本稿の目的

(1) 意識と体外にある物質とが直接に情報を交換する現象をマクロPK(念力)といい、両者間を仲介する物質をサイ(気)と言う。(2) サイ(気)現象は、基盤になる現象の変曲点(零場中の零点)で、エネルギー一定条件で生起する。(3) この時の意識は変性意識状態(ASC)であり、醒めた意識はむしろ否定的(現象阻止)に作用する傾向がある。一方、(4) オーブと意識の間には、情報交換があるので、オーブもマクロPKである。しかし、今までは未検討であった。そこで、本稿で検討することにした。オーブは、デジタル・カメラ(CCD)を用いて、電離した薄暗い空間に向けてフラッシュ撮影する時、ノイズとして、乳白色小円形状に写り込んで来る。なお、オーブは巨視的な物質(画像)であるが、不思議な事に、素粒子類似の性質を兼ね備えて出現してくる(別報参照)という結果が得られている。

2. 実験・撮影条件

画素数の少ないデジカメとしてニコンE-2200(220万画素数)。多いデジカメとしてカシオEX-Z2000(1610万画素数)、キヤノンIXY, 8105(1610万画素数)を用いる。撮影は、露出モードをオート撮影(P)に合わせる。これは絞りとシャッターの組み合わせをカメラが自動的に選定して撮影する方式である。撮影条件は、スト

ロボ強制発光(フラッシュ光ON、色温度約6000度K)。天候は晴れ、小雨の降り始め時、晴天時の室内。晴天の室外でスプレー水(キリ、噴霧)を放射したとき。

3. 意識とオーブの同調

経験によると、写り込んでくるオーブ像は円の直径、模様(表情)、色合い、ヘイロー(halo)などは様々(ランダム)であるが、一枚の写真にはほぼ同一の模様(表情)が写されてくる、と判断している。はじめに、これを、実験から確かめることにする。

(1) 噴霧水放射の場合

雨の降り始めにオーブは出現しやすい、これは、オーブ形成に空気のエ離と水素(陽)イオンが必要となるからであろう。そこで、はじめに晴天時にk式スプレー法をもちいた噴霧水の場合について検討する。一例としての写真No.0774の場合を見る。2014年5月22日(木)、福島市、夜7:50~。カシオEX-Z2000(1610万画素数)。画面中央部にモヤ(キリ、極微小雨滴)が写り、モヤとは別に、中小径の様々の大きさのオーブが、ランダムに広く分布して写されている。オーブの円形内部には、ほぼ同一の小粒状の凹凸模様がある。

別の一例として、写真No.0941の場合をみる。2014年8月9日(土)、仙台市、夜8:10~、カシオEX-Z2000(1610万画素数)。写真の左側にスプレー器具、その噴射先にモヤ(極微小雨滴)、右下に屋根がある。この写真を見ると、円形内部に1~3個の穴のあるオーブが、全面に、同一模様で、ランダムに写されている。以上の2枚を比較すると、気温や意識などが相違する為であろうか、それぞれの模様は異なっている。しかし、1枚毎にみると、模様(表情)はほぼ同一である。実施の内容から判断すると、以上の結

芸家であるが、クライアントの身体の状態を洞察する能力を備えておられた人で、今回の鉱石の成長に気がつかれた人^{※6}も霊能力のあるヒーラーと云うべき人である。どちらも通常は観測し得ない事象を起こす人である。

ともかく、鉱石という物体がこのように成長するということがあるらしい。

※1 ここでは石を持った人の影響である点は明らかとし、しかし人の何が影響したかが明らかであるわけではないが、「意識が影響する」という表題でまずは報告することとした。「人の場」という表現が次の候補である。どちらも科学的には追求しにくいサイエネルギーである。以上が仮題の理由である。

※2 りんあん氏(本名：小島鈴江氏、現在千葉県千葉市在住)。父、祖父、曾祖父など代々に僧籍に身を置いた家系の人で、本人は現在僧籍には身を置いていないが、多くの人に、その持つ霊的な能力で霊障などを直しておられる、強い能力を持つ人。
このような力のある人であるためにここで述べるような鉱石の成長があるのかも知れない。もちろんその関係は全く定かではない。

※3 ここでの鉱石とは以下の岩石に当たる。

鉱物と岩石はよく混同されてしまうが別物である。岩石は、鉱物または岩石破片の集合体であり、化学的に均質なものではない。鉱物は、化学的にはほぼ均質で、原子・イオンレベルで3次元的な秩序配列(結晶構造)を持つ。具体的には、墓石などに使われる花崗岩(御影石)は岩石であるが、花崗岩は石英、長石、雲母などの鉱物の集合からなっている。また、単一の鉱物からなっている、複数の結晶が集合して、単一の結晶ではない場合、1種類の鉱物からなる岩石ということになる。たとえば、結晶質石灰岩(大理石)は方解石の結晶により構成されるが、単一の結晶ではなく複数の方解石結晶の集合体なので、岩石である。この両者の関係は、よく「生物体」と「細胞」の関係にたとえられる。生物体を「岩石」とすると、それは様々な種類の細胞「鉱物」で構成されている、といった具合である。細胞の一つ一つは鉱物であるが、それが多く集まり固結していると岩石と呼ばれるようになる。

※4 「意識による異常磁気の発生とその観察」副題：直交配置3軸センサーによる生体周辺の磁気の測定：第1報～第6報 小牧昭一郎 1999～2004 磁気と生体研究会誌～サイ科学；日本サイ科学会(論文集)；第2報はPSI Vol.22, No.1 August 2000 Thesis 2. pp.6-20.

※5 須田泰心氏、群馬県前橋市在住。小さい頃より透視、予言などの能力があり、クライアントの治療などに当たられた。

※6 前出脚注2

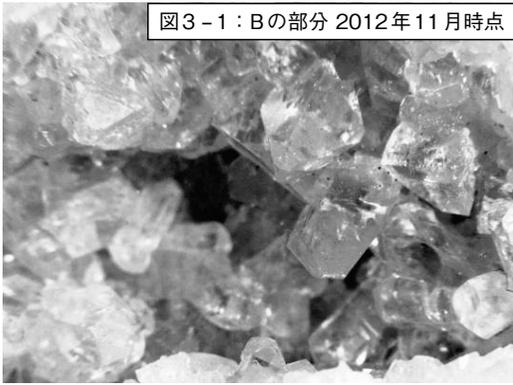


図3-1：Bの部分 2012年11月時点

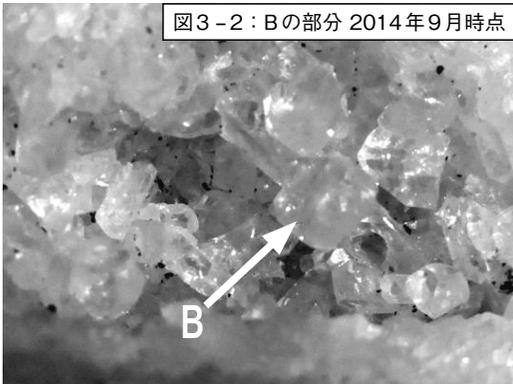


図3-2：Bの部分 2014年9月時点

れ対応すると思われる部分を2014年9月に撮影したものを図2-2、図3-2に示す。

図2-1と図2-2を比較すると、両図の撮影角度が微妙に違うので正確ではないが矢印Aの先端付近は図2-1では空間であった部分が鈍い白い鉱石で埋められているようである。ここでの洞窟の深部の付近でも図2-2の方が浅くなっているように見える。

図3-2では矢印の先端部分の結晶の大きさが図3-1でのその直上の結晶に比較して大きく見える。また、その直上の結晶がやや小さく見えるが、どちらにしてもこの二つの結晶の大きさが変化している。図3-2での矢印先端の結晶部分が丸みを帯びて見える。図3-1での六方晶形の特有の先端の稜線が見えない。図2と同様、撮影角度が厳密ではないので、以上の比較は正確とは言えないが。

撮影角度が厳密ではないので、以上の比較は正確とは言えないが。

2. 所感



図4 手での抱え方

人が手の中、膝などに抱えて(図4参照)持つことによって鉱石が成長するという事例として、簡単なスナップでご紹介した。撮影が不十分で、この報告ではその違いが明瞭とは思われないが、仮に明瞭になったとしても、人の何が影響したのかについてもなにも明らかになりそうもない。

しかし、筆者には意識が周辺の空間に対して物理的な影響を与えることを研究した経験がある。人が「ここだよ」というかけ声を発する度ごとに、その人の身体周辺の空間に磁気が発生する、それを特別に準備した磁気記録システムによって観測・記録した^{*4}。磁気波形は低周波領域の交流波形で、掛け声と同期して観測されたので、明らかにその人の意識に関連すると考えるべき状況であったから、「意識が原因となった磁界の発生」としてよい、と考えた。こうした事例に対して、今回の鉱石の成長は時間的には極めて曖昧であり、ほとんど特定ができないので、「意識による鉱石の成長」は仮題とした。しかし、この両者の観測に共通している点は、観測対象の人がどちらも超能力者と云われるべき点である。この磁気が発生の対象となった人^{*5}は陶



〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 日本サイ科学会発行

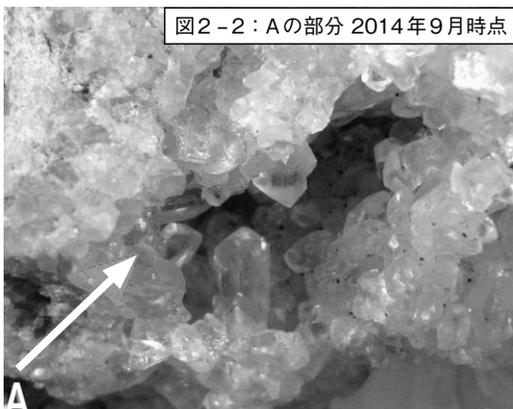
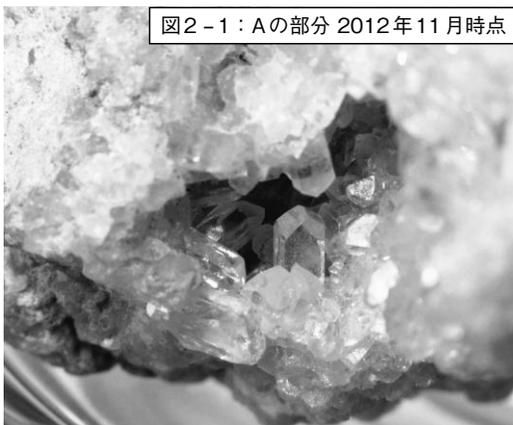
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

公式サイト <http://homepage3.nifty.com/PSIJ/> ML申し込み先 office21@psij.mail-box.ne.jp

意識^{*1}による鉱石の成長

理事 小牧 昭一郎

1. 観測状況



会員R^{*2}氏は自分が日頃大事にしている石が時間とともに成長すると思う、と筆者に云ったことがあった。この石とは、よく夜店などで見かける置物になるかも知れない自然の鉱石^{*3}で、水晶の単結晶らしい六方晶形の小さな単結晶が内部にたくさん見られる鉱物結晶で、図1のような外観を呈し、所々にいわば洞窟状の部分があり、そこに水晶の単結晶らしい結晶が見られる。この石をしばらく持っている、成長するようになる、とのことである。上記の水晶の単結晶らしい柱は大きさ1.5ミリ程度、小さなものであるが、透き通っていてきれい、まわりは多結晶の六方晶形の頭の部分が重なっている部分に覆われたり、自然の鉱物としてどこにも加工したところはない。この鉱石自体が時間が経つと成長してその洞窟の部分などが狭くなったのではと。

天然鉱石は高温の溶岩の状態のときに冷却した状態を維持しているはずであり、これが一般的な常識で、人の手の中で成長するという常識はない、まして人が手の中に抱く、というような常温で石が成長するとは考えられない。

ところで、R氏のかかえる石を2012年11月に撮影したものを図2-1、図3-1に示す。それぞ